

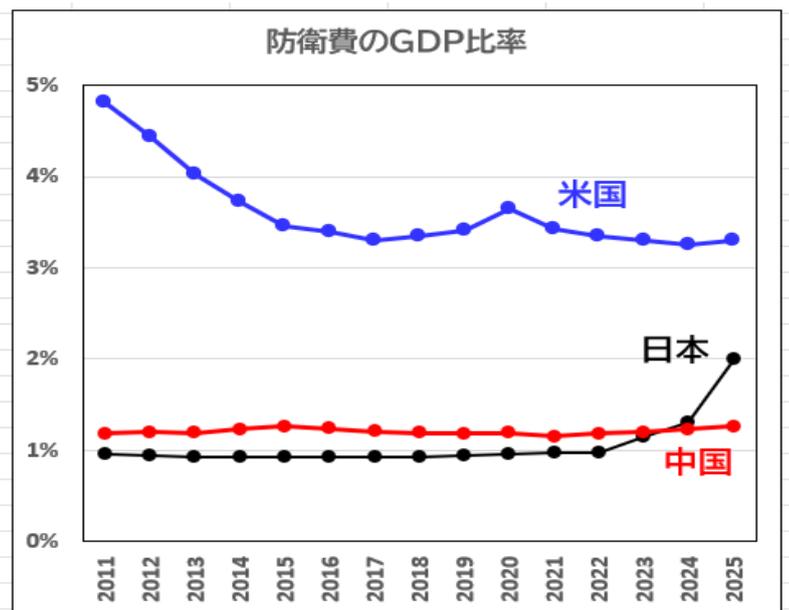
### 防衛費のリアル(3) 安全保障環境

今回は、国民が防衛費の急増を、ある程度仕方ないと受け容れる背景として、「時代の気分」を考察しました。100年前のスペイン風邪・パンデミック後の人々の不安によるファシズム化の風潮と似て、今回も行き過ぎたグローバル化の中で発生した新型コロナ・パンデミック後の人々の不安が、排外主義を助長し、軍拡競争を容認していると分析しました。本稿では、軍拡の主因とされる「安全保障環境の悪化」について考察します。

テレビや新聞、ネットでも、語られるのが「東アジアの安全保障環境が急速に悪化して・・・」という枕詞です。繰り返し語られるので、ほとんどの人が、中国は大軍拡をしているし、北朝鮮はミサイルをばんばん飛ばす。ロシアもウクライナを侵略しているから、かなりヤバイと信じ込んでいるようです。

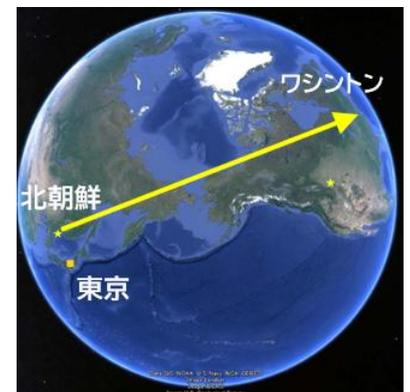
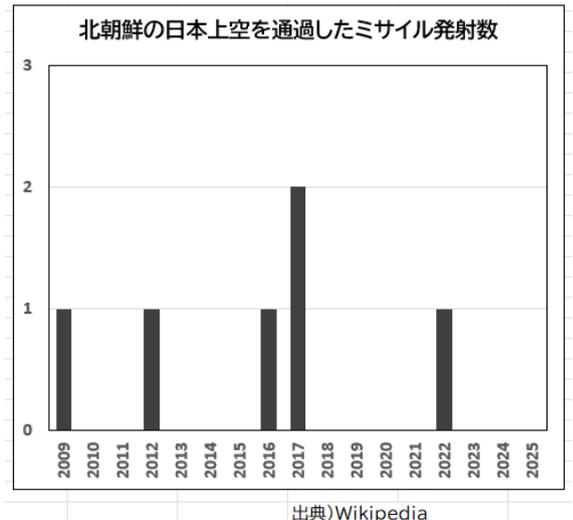
でも、日本を取り巻く安全保障環境の急速な悪化って、自明のことなのでしょうか？

まず、中国の大軍拡ですが、中国の防衛費の過去15年間の推移を、日米と対比して、GDP比で見てみましょう。GDP比で見ると、GDPが各国が1年間に稼ぐ付加価値の総額で、軍事費の負担もGDPに見合うのが常識的だからです。右図の通り、中国の防衛費のGDP比率は、過去15年間、驚くほど一定であることが分かります。もちろん、GDP自体が年率6.5%前後で成長してきたので、防衛費の絶対額は増えていますが、分相応で、決して大軍拡とは言えません。それにも拘らず、「中国が大軍拡して危険この上ない」という声が巷やテレビ、ネットにあふれているのはなぜなのでしょう？ どうも、背景に意図的な世論操作があるように勘ぐってしまいます。



出典)米国: 国防予算、IMFデータ  
中国: 国防予算、国家統計局データ  
日本: 防衛白書、IMFデータ

次は、北朝鮮のミサイルです。過去17年で、日本列島上空を通過した北朝鮮のミサイルの件数は右図の通りですが、最近になって急速に頻度が増えたとはとうてい見えません。どうも、我々はイメージに流されているようです。そもそも、いまだ休戦中とされる朝鮮戦争での敵国は米国であって、日本ではありません。実戦で、ワシントンに撃ち込むには、右の地図の通り、北朝鮮からカムチャッカ半島のさらに西の方向に発射することになります。そもそも、キム王朝にとって、日本など眼中にありません。さらに、日本には100万人近い同胞が住んでいることも、よほどのことがない限り、日本が北朝鮮ミサイルのターゲットにはならない要因です。



最後は、ロシアです。幸か不幸か、ロシアは現在、ウクライナと戦争の泥沼にあって、軍事力も国力も疲弊しています。また、経済制裁下にあつて、天然ガスのサハリン-2プロジェクトで日本は数少ないビジネスパートナーとなっています。将来のことは分かりませんが、当分は日本を攻めるメリットはないでしょう。

以上の分析から、「東アジアの安全保障環境が年々厳しさを増している」との言説は、実体は乏しく、どうも意図して作られたもののようです。個人的には米国の軍需産業とシンクタンクのビジネス・トークが発信源と推察しています。パンデミックの直後だけに、人々は多かれ少なかれ、扁桃腺を腫らし、怖がりモード全開で、シンクタンクの計算通り、反応してしまうようです。

実体的なリスクが伴うのであればまだしも、影に怯えて、数兆円単位の巨額の血税を差し出す愚かしさに哀しくなります。今回は、意図的につくられた戦争リスクへの備えとしての沖縄・南西諸島の要塞化の虚実について掘り下げてみたいと思います。

(竹の台 西元)